



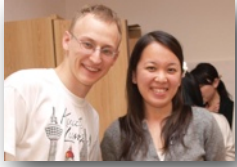
JEG ニュースレター 135号

www.jegschweiz.com

2013年5月31日発行

小さな証

ミッションの船ロゴスホープ号で知り合い、スイスで結ばれた二人が、苦勞しながらもここでの生活に馴染み、今、また新たな使命を帯びて旅立つまで。



ミッションの日

5月26日のスイスJEGは、ミッションの日として子ども達も礼拝に参加し家族礼拝をもちました。多彩なプログラムの中で宣教の意義を学びました。



日出ずる国

ミッションの日に因んで祖国で福音を伝え、一人でも多くの方々が救われるためにお働きの宣教師からのお便りを掲載いたしました。



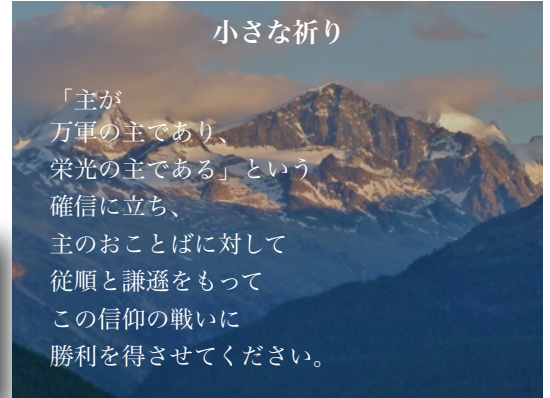
お別れのことば

田辺牧師退任後、当教会を3年余り牧会されたゲルスタ牧師ご夫妻が5月末をもって退任されることになりました。



小さな祈り

「主が万軍の主であり、栄光の主である」という確信に立ち、主のおことばに対して従順と謙遜をもってこの信仰の戦いに勝利を得させてください。



イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」
マタイ28：18-20

スイスJEGに繋がる
宣教師のみなさん

Japanisches Meer



金沢/内灘

フィリップ&祐子
マルティン宣教師(OM)



さいたま

ベラ・ラシェンコ
宣教師 (OMF)



東京/江東区

マックス&玲子
オーニング宣教師 (OMF)



東京/
町田市

プリシキラ・クンツ
宣教師 (リーベンツェラー)



宮崎

クリスチャン&直美
ローゼンクランツ宣教師

ちいさな証

祈りをお聴き下さった神様
マルティン祐子

スイス日本語福音キリスト教会



「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。(エフェソの信徒への手紙 3章 20、21節)

私がスイスに来てから早くも2年が経ちました。2011年3月末、東日本大震災の10日後にバーゼルに到着しました。当初は日本中が悲しみに包まれ、大混乱しているさ中で、私は「こんな状況の中、すでに決まっている結婚準備のためとはいえ、私だけスイスに行ってもいいのだろうか。」と困惑していましたが、たくさんの方々から暖かく迎えられる、新しい生活を始めました。

しかし、とても祝福された結婚式や、楽しかった両親のスイス訪問、ギリシャでの新婚旅行などが終わり、忙しさからひと段落した頃、突然寂しさと沢山の疑問に襲われました。どうして神様は私をスイスに連れてこられたのか、私がスイスにいる意味は何なのか、そして何よりも、夫に頼りっぱなしのこの外国の地で、どうやって神様のご用のために働けるのか、と考えていました。そして、神様にいただいたせつかくの時間を無駄にしているのではないかと落ち込みました。

2012年1月、私は必死に神様にお祈りしました。「神様、私の今いるこの場所で、私を私らしく用いてください。私にできることを教えてください。」とお願いしたのです。神様は私の祈りを聞いてくださり、すぐに、次々と道を開いてくださいました。神様は、同じ月に、教会の讚美チームでバイオリンを弾く機会、バーゼル在住の日本人のための家庭集会を導く機会、そして子どもたちの給食奉

仕に参加する機会を与えてくださいました。

小さい時は練習が大嫌いだったバイオリンが、今は神様の御名を讃美するために用いられているとは、奇跡のようです。そして夫婦で一緒に礼拝で演奏できるというのも、大きな喜びです。

給食奉仕の場では、両親が働いていて、家でお昼ご飯を食べることができない幼稚園児や小学生たちと一緒にご飯を食べ、遊びます。時間帯も、仕事内容も、一緒に働く人たちも理想的で、本当に神様が導いてくださったと確信しています。スイスのやんちゃな子どもたち相手でも、大変なこともあります。神様に頼ること、神様の愛の大きさを毎回学んでいます。



家庭集会をリードするというのは初めての経験でしたが、私のスイスでの生活にとって欠かせない、貴重な時間となりました。ウェンディさんが、毎回一緒にスカイプで準備して下さり、感謝しています。人数は少ないですが、神様の言葉をゆっくりと皆で味わうことができ、毎回聖書から新しい発見、励まし、慰め、希望をいただき、本当に恵みに満ちた会です。バーゼルの小さな我が家が、信仰の交わりのために用いられ、神様の言葉と、私たちの讃美と祈りに満ちているとは、何と言う幸せでしょうか。

この2年間、神様がいつも、必要な時に必要な助けを与えてくださいました。私と神様は2年前よりも親しい関係になりました。そして、これからの2年間、私たち夫婦は国際宣教団体OMの日本支部で奉仕しますが、今までのように、困難やチャレンジと共に沢山の恵みや祝福も用意していただく、と信じています。

(私たちのニュースレターをご希望の方は yulipp@phox.ch にご連絡ください。)



1、この日がゲルスタ牧師ご夫妻にとり、最後の御奉仕となった5月26日(日)の主日礼拝は、「ミッションの日」として、子ども達も一緒に最後まで参加するファミリー礼拝が行われました。

この「ミッションの日」は、イエス様による大宣教命令”マタイ28：18-20”をベースに、国際伝道における宣教師の役割と、宣教師を祈りや献金といった様々な形で教会とキリスト者が支えていこうとする営みの重要性を全世界に知ってもらおうと、ゲルスタ・ウェンディ師の発案企画によるもので、多くの兄弟姉妹と宣教師の全面協力によって実現し、祝福されたファミリー礼拝となりました。

礼拝に先立ってJEGユースバンド”渡り鳥”の喜びに溢れた明るい賛美が捧げられ、CSの子どもたちの振り付けをともなった賛美、そしてティーンズとユースグループによるコミカルな演劇が披露されました。その後、ウェンディ師によるミッションを



テーマに、マタイ9章1-8から「みんなで!」と題して奨励(通訳:ブラザー直美姉)がなされました。



奨励のあと、スイスJEGで通訳の御奉仕をされているブラザー・直美姉が働くキャンパスクルセーダーズ翼下にあるインターネット・ミニストリーの

目的とその活動を、自らの生い立ちと経歴を含めて説明して下さいました。また、9月9日に2年間生活されたスイスを立ち、金沢市近郊の内灘にある日本OM(オペレーション・モービライゼーション-現在世界約90カ国で約4000名の宣教師が活動している超教派の国際的宣教団体: <http://www.jp.om.org/index.html>)で働かれる予定のマルティン・フィリップ兄と祐子姉のパワーポイントによるプレゼンテーションがありました。

また、この日によせて日本で宣教師として活躍されている宣教師の方々からもスイスJEGの兄弟姉妹にむけてボイスメッセージがあり、礼拝に参加されたクリスチャン・ローゼンクランツ兄とフィリップ・マルティン兄のご両親も喜ばれました。この日のファミリー礼拝のビデオ(NL読者限定公開)を<http://youtu.be/rpfAqXYMNy4>でご覧頂けます。



5月26日家族礼拝/愛餐会スナップ

2、5月26日のファミリー礼拝後の愛餐会において、ゲルスタ・ハンズウエリ牧師ご夫妻の”歓送会”が催され、ビュッフェ形式のご馳走をいただきながら、この3年余りのお働きを振り返り、賛美や子ども達のプレゼント、原兄姉の替え歌讃美歌などで感謝の意を表しました。また、教会員からのささやかな贈り物としてゲルスタ牧師が信仰の決心をされたというテシン州アスコナのホテル・カサ・モシア(今年のミラノ賛美教会との共同修養会の会場)の宿泊券が寄せ書きとともに贈られました。なお、ゲルスタご夫妻からのご挨拶が6ページに掲載されていますのでお読み下さい。



3、お茶の水クリスチャンセンター内のDRCnet(東日本大震災救援キリスト者連絡会) <http://drcnet.jp/201110/> に、スイス教会から本園姉によって直接届けられた特別献金に対して連絡会から礼状が届きました。

神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだっても、その水かさが増して山々が揺れ動いても。(詩篇46：1-3)



スイス日本語福音キリスト教会様、

主の御名を賛美します。今回も又、東日本大震災救援キリスト者連絡会の働きのために、尊いご献金を賜り心から感謝いたします。

被災から2年3ヶ月が経過しました。被災地もやっと暖かくなって来た様ですが、少しでも暮らしよい環境が出来れば、又東北でのキリスト教の伝道の実が少しでも実れば、と祈るばかりです。活動3年目に入ったDRCnetは東北各地の教会や救援ネットワークを通じて、ハブ的な働きを進め、支援の働きを続けております。このDRCnetの為に、献金のみならず、お祈りと、暖かいご支援をいただき本当に有り難うございます。

今後とも、被災地の皆様のために、又DRCnetの働きのために、宜しく願いいたします。

主の祝福を心からお祈り申し上げます。

2013年4月27日

東日本大震災救援キリスト者連絡会

会長：中台孝雄、副会長：榊原寛、事務局：松下瑞子

4、ヨーロッパと日本の架け橋を目指す関西ミッションリサーチセンターからBRIDGE FOR EUROPEというニュースレターが発刊されました。欧州と日本における教会の動きや催しなどの情報が盛り込まれています。kmrc@koluthse.jpから定期的にお受け取りになれます。

5、オーニングャー宣教師、クンツ・プリシキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子ニュースレター51号、吉村美穂ニュースレター74号、井野葉由美メルマガ98号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、在欧日本人宣教会機関誌、イザール通信、夜越山祈りの家月報届いていません。お読みにになりたい方は、松林までご一報下さい。

まことに、その人は主のおしえを喜びとし、
昼も夜もその教えを口ずさむ。

詩篇 1 : 2

中村牧師はキリスト者の人生と教会にとって
最も大切なことは”喜び”であると説かれました。
このことは日本人の牧師がキリスト者の人生は
義しく生きた上、義務を守ることであると説くのと
対照的であると思いました。まことに喜びに溢れた
説教でした。

ところで、スイス教会のみなさん。お二人の
顔に見覚えありませんか？中村牧師は2007
年夏にスイス教会で説教をされたのです！

Priscilla Kunz

この夏、帰瑞します

埼玉県は国際キリスト教会の
ラシェンコ・ベラ宣教師から



愛するスイス日本
語キリスト教会の皆
さん、こんにちは。
いつも私のために
祈ってくださってあ
りがとうございま
す。

4月27日、私は
東京のお茶の水クリ
スチャンセンターで
スイス教会の本園姉
妹と東京にお住まい
のウルス君と美智子
さん、そしてDRCnet
の松下さんにお会い
しました。そして、
スイスJEGの最近の
動きを知る事ができ
て嬉しかったです。

私はOMFの宣教師として日本に派遣されて
からもうすぐ3年になります。埼玉国際キ
リスト教会の奉仕を通して主に仕えることは幸いな
ことです。今年の8月に休暇で帰国する予定で
すので、皆さんにもうすぐお目にかかれること
を今からとても楽しみにしております。

祈りの課題を書かせていただきます。

*英語礼拝に毎週新しい方々が参加され感謝
しています。私たちがこのキリスト者や求道者
を上手に歓迎できますようにお祈りください。

*夏中に教会のリフォームが予定されてま
す。子供たちにとって、もっと良い場所がで
き、台所も広くなりますように。

*7月に、スサン・チョングさんを新しい協
力宣教師として迎えます。スサンさんが早く東
京の生活や教会の奉仕に慣れますように。

*私の9ヶ月間のベルンでの滞在中の良い滞
在先が見つかりますように。

私もスイス教会に優れた牧会者が与えられま
す様にお祈りしています。 Wera Laschenko

福音の素晴らしさを体験

南国九州は宮崎の

ローゼンクランツ

クリスチャン&直美宣教師から



スイスJEG
のみなさん！
すばらしい
主のみ名を賛
美します。い
つも日本にい
る私たちの事
を祈りに覚え

てください本当に感謝です。

私たちも、恵みによって宮崎で元気に過
しています。教会も今はまだ土台を建て上
げているところですが、一人また一人と
加えられ、みんなで奮闘しています。

毎週土曜には若い人たちを中心に伝道に
出かけたり、また収穫者のためのレッシ
ンを通して、働き人を育て上げたりして
います。それぞれの職場から救われる
人が次々に起こされ、神様のすばらし
さを皆で体験しています。

ある人は職場
で福音を伝え、
次々に人々が救
われて日曜に休
みを取るため、
職場の上司から
”職場の人を
教会に誘ったら



いけない”という禁止命令が出たほど
です！福音の力はすばらしいです！

日本においてイエス・キリストのことを
聞いたことのない人たちが神に出会い、
人生が変えられていくのを見ることが
できることほどの感動はありません。
本当に神様は日本のことを愛し、心
に留めてくださっていると感
じます。



3-4月はスイ
スの両親も
こちらに
来てし
ばらく
の時を
共に過
すこと
ができ
ました。
またス
イスの
様子や、

みなさんのことを聞いて励ましを受けました。
離れていても、同じ神の国に生きることが
できることを感謝しています。
祝福をお祈りしています。

Christian&Naomi Rosenkranz

日出ずる国より

牧師が与えられました

東京・町田市は松見が丘教会の
クンツ・プリスキラ宣教師から



私たちの
教会に
新しい
牧会者
ご夫妻
が与え
られま
した！
牧師夫

人はかって学生として町田に住み、松見
が丘教会の会員として礼拝を守ってお
られました。そして、教会から神学生
として送り出され、その神学校でや
はり神学生であった中村牧師と知り
合われました。

お二人の夢は、いつの日か松見が丘
教会で牧会することでした。いまや
中村夫人の夢が実現したばかりで
なく、神様の約束も同時に実現した
訳です。

見よ。わたしはあなたとともにあり、
あなたがどこへ行っても、あなたを
守り、あなたをこの地に連れ戻そう。
わたしは、あなたに約束したことを
成し遂げるまで、決してあなたを
捨てない。

創世記 28 :

15

私の予定表
はいまも
おぎっし
り埋まっ
ていま
す。でも、
心理的な
負担は、



新しい牧師夫妻をお迎え
出来ることで、著しく軽減されまし
た。ご夫妻を私は良く知っていますし、
中村夫人との意見交換はとても楽し
いものです。本当に私にとっては大
きなプレゼントです。

4月7日、中村新牧師は「喜び」を
テーマに詩篇 1 : 2 から初説教を
されました。

東南アジアから



”渡り鳥夫婦”はいま、
シンガポールは
松本章宏牧師から



スイス日
本語教会の
みなさま
へ。

昨年7月22日(日) 貴教会での礼拝で説教させていただいた松本章宏です。その後の「渡り鳥夫婦」の足取りをご報告させていただきます。

8月5日までヨーロッパキリスト者の集いに参加した後、私たちはいったんジャカルタへ戻り、バリで奉仕した後、日本に一時帰国しました。約1ヶ月間、東京と札幌と大阪を巡回した後、ジャカルタ経由でシンガポールへ。牧師のいないシンガポールJCFで10月～12月の3ヶ月間メッセージのお手伝いをしました。

シンガポールは日本人伝道にとってはまさに好漁場で、イエス様を求めている人たちがたくさんいらっしゃいます。日本人の人口は約25,000人。彼らの心が開かれている理由の一つに、シンガポール人クリスチャンの日本人に対する愛があります。会社などでも一生懸命伝道して下さるので、英語の礼拝に行っている日本人は少なくありません。



3ヶ月間の奉仕を終えて私たちは約2週間もう一度日本に戻りましたが、その間にシンガポールJCFで臨時総会が開かれ、私を専任牧師として招聘するという

ことが決まりました。私たちは1月19日から約3週間、昨年できたばかりのドバイJCFで奉仕し、その間の4日間、初めてインドに行き、デリーJCFでも奉仕しました。2月の後半の2週間は、インドネシアのスラバヤとバリとジャカルタで奉仕し、2月28日にシンガポールに到着。ついに、11ヶ月間続いた渡り鳥生活に終止符を打ち、3月1日から専任牧師としての働きが始まりました。

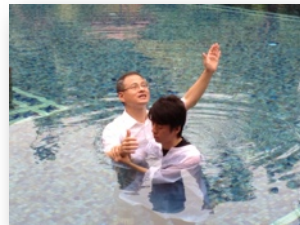
集を開くと新しい方々が来てくださるので、礼拝が日曜日



水曜日の家庭集

だけというのはいらないと思、月曜日の夜に我が家で、火曜日の午前に教会の一室で礼拝を始めました。今のところ、日曜礼拝は約60名、月曜礼拝は3名、火曜礼拝は10名位の出席です。火曜日の夜には、毎週チャイナタウンのカフェでバイブルスタディを行っています。その他に婦人会、祈禱会、家庭集があります。3月と4月にすでに4名の方々が洗礼を受けました。

毎週水曜日の午前中、インターナショナルバプテスト教会で無料の英語教室が行われていますが、600名の登録者のうち、約400名は日本人のご婦人たちです。ほとんど誰も礼拝につながらないのはもったいないので、水曜日の午後には食事を用意して残っていただき、簡単な聖書のお話を始めています。今週は約30名が参加し、「聖書流子育て講座」に耳を傾けてくれました。



昨年は1年間「渡り鳥夫婦」というブログを綴っていましたが、シン

ガポールに来てから「深みに漕ぎ出して」というタイトルに変更しました。よろしければ、ご覧になってください。

<http://wataridoricouple.blog.fc2.com>

ヨーロッパの
日本語教会と集会から



Aさんの出会いと学び
北ドイツはハンブルグの
工藤篤子姉から



愛するスイス日
本語教会の皆さまへ

すっかりご無沙汰してしまいましたが、お元気でいらっしゃいますか？

いつもニュースレターをお送

りくださり、ありがとうございます。また、この者の働きのためにもお祈りお支えくださり、心から感謝申し上げます。

私は、例年、春、秋と日本に行き、年間の5か月を日本での伝道コンサート期間に当てていますが、今年は、秋から讚美セミナーを始めるべく、1月～9月を、ドイツにて、その準備期間に当てています。

そのような中で、約3か月前に、長年カルト教会の会員であったAさんと出会い、その方と聖書の学びを始めることになりました。彼女にとっても私にとっても、いのちがけと言ってもよいほどの壮絶な霊的戦いの日々が続きましたが、勝利の主は、彼女を明確な信仰告白へと導いてくださいました。

私自身、スペイン留学前に、キリスト教と称する異端教会に関わっていたことがあります。私には守りきれなかった戒律を前に会員になることを躊躇し、そのままスペインに留学しました。幸いなことに、留学一年目に、真の救いに導かれましたが、聖書を彎曲利用した戒律的な教えから解放されて、真理の教えに組み直すまでに数年かかりました。しかし、あの時のマインド・コントロールの恐ろ

しさを経験していたことが、Aさんを理解し、アドバイスするために役立ちました。



感わしの霊が激しく働く時代になったと思います。ハンブルクにもいくつかのカルト団体の大きなセンターがあり、多くの日本人がそれらの集会に集っています。

皆様も、カルト団体に属しておられる方をご存じでしたら、まずその方の救いのためによく祈り、主が皆さんをその方の救出のために用いられるときには、適切なアドバイス、導きを示唆していただきますように。お時間がある時に、是非、日本で長年カルトからの救出活動をして来られたウィリアム・ウッド師（真理のみことば伝道協会）のお話しをお聞きになってみてください。<http://vimeo.com/29208428>

以下、Aさんが真理に目覚めるきっかけになったみことばです。

だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかが分かります。（ヨハネ7:17）

終末の今、多くの感わしの霊に捕らわれている人々を主が解放し、真理へと導いてくださいますように！

皆様の上に、スイス日本語教会の上に、主の守りと祝福をお祈りしています。

パリの修養会での再会を心待ちにしつつ！



愛するJEGの皆さん、

私達は3年程前にJEGで再度働き始めました。あっという間にその時間が経ってしまったと感じています。振り返ってみると、この時期は自分達が思い描いたものとは違っていました。健康に問題が出て、たくさんのやりたかった事が出来ませんでした。しかし、私達の弱さを通してご自分の力を表される神様は、イザヤ26、12にもありますように私達の色々なビジョンを越えたたくさんの素晴らしい御業をなしてくださいました。

「主よ。あなたは、私達のために平和を備えておられます。私達のなすすべてのわざも、あなたが私達のためにしてくださったのですから。」

主の御名にすべての栄光、誉れと賛美がありますように！

これからも、私達はJEGのために祈り続けたいと思います。どうか、私達のためにもお祈りください！とりあえず、引越さず、ウスターに住み続け、OMF（宣教団体）のメンバーとして主が備えてくださった「良い働き」（エペソ2、10）を求めて、行いたいと思っています。

まず夏休み終了後には、20年以上私達を支えてくださったイギリスの母教会への訪問も計画しております。主が許して下さいれば、私達は是非日本に戻り、そこでまた、神様に仕えたいという願いもあります。その為に支障となるのは主人の健康状態なのですが、神様には不可能なことは一つもないので、私達はまだあきらめてはいません。6月からは、リーダーという立場ではなくても、時々JEGの礼拝と集会に参加し、皆さんと交わりを持ちたいと願っていますので、これからもよろしくお願い致します！

この3年間、皆さんと共に神様に仕え、尊い主にある交わりが出来た事を、心から主に、そして皆さんに感謝いたします。

主イエスの愛にありて、
ゲルスタ・ハンスウエリ&ウェンディ

